

「むべなるかな」アケビとムベ(4月の自然庭園では) ～みぬま見聞館トピックス～

このページを印刷する

このページでは[大宮南部浄化センター（みぬま見聞館）](#)のトピックスを紹介をします。

「むべなるかな」アケビとムベ(4月に自然庭園で観察できる動植物について)

日差しの強さが感じられる時期となってきました。満開の桜も散り始め、入学式、入社式など新しい人生の門出を迎えられた方もたくさんいると思います。

今月は、この時期に花が咲くアケビとアケビに似ているムベを紹介します。

アケビは、アケビ科アケビ属のつる性落葉低木の一種です。5月にかけて、白い花を咲かせます。雄雌同株ですが、雌花と雄花があります。受粉して果実は育ち、秋に熟すると縦に裂けて、中から白い果肉と種子が現れます。白い果肉はねっとりと甘く、生でおいしく食べられます。また、つるは、しなやかでかつ強く、リース作りやかご編みにも利用することができます。

庭園では、アケビは、東側の入口門近くのフェンス沿いに生育しています。

また、アケビの葉を食べる昆虫として、大型のガであるアケビコノハの幼虫が知られています。この幼虫は、背中に目玉模様があり、外敵等に対し、背を丸くして、目の形の紋を見せ威嚇する独特の防御の形をとることで知られています。アケビコノハの幼虫もさがしてみてください。

一方で、ムベは、アケビ科の一種、ムベ属の常緑つる性木本植物でトキワアケビとも呼ばれています。

ムベは、春に白い花をつけ、秋に7～9センチほどの鶏の卵より大きな楕円形の赤紫色の実を結びます。この実を割ると半透明の粘りのあるゼリー状の果実と種が詰まっています、食べると、ほんのり甘く素朴な味を楽しめます。

名前の由来は、天智天皇が狩りに出かけた際に、長寿の実といわれている「ムベ」が献上され、賞味した天皇が、もっともだという意味の「むべなるかな」といったことから、「ムベ」と呼ばれようになったといわれています。

庭園では、ムベは、東側のアケビの近くに生育しています。

花の色や形、実のつき方など同じアケビ科であるアケビとムベの違いをお楽しみください。

これからの時期、スマリ、カントウタンポポ、ニリンソウなどの草花、そして、モンシロチョウ、ナミアゲハ、アオスジアゲハや成虫で冬を越したルリタテハなどのチョウが顔を出してきます。ぜひ、みなさんと自然庭園にお越しください！



4月の自然庭園でのアケビの様子です



アケビの実



アケビの雄花



アケビの雌花



アケビコノハの幼虫です
独特なすがた、カタチをしています！



「むべなるかな」のムベの実です



ムベの花咲く様子です



ムベの花、キレイです！



この時期いろいろなスミレが可憐に咲きます



ニリンソウ、名前のとおりです



アオスジアゲハ



ルリタテハ

浦島太郎とウラシマソウ (5月の自然庭園では) ～みぬま見聞館トピックス

このページを印刷する

このページでは[大宮南部浄化センター \(みぬま見聞館\)](#)のトピックスを紹介をします。

浦島太郎とウラシマソウ(5月に自然庭園で観察できる動植物について)

穏やかな気候ではありますが、紫外線が最も強い季節となりました。そして、日が暮れた後には、春の星空が楽しめる時期でもあります。今月は、ウラシマソウとホウチャクソウ、アマドコロを紹介します。

ウラシマソウは、サトイモ科テンナンショウ属の多年草です。変わった形をしており、花は、小さな花が集まって棒状になっており、それを仏炎苞（ぶつえんほう）と呼ばれるもので包んでいます。同様に、葉っぱも鳥足状の複葉や三出複葉と呼ばれる形をしています。名前の由来は、先ほどの棒状の花序の先端が、釣り糸状に長く伸びて、その様子が、浦島太郎の持っている釣り竿の糸のようであることから、こう呼ばれるようになりました。

ホウチャクソウは、イヌサフラン科チゴユリ属の多年草です。名前の由来は、花が寺院の軒先の四隅に吊り下げられた飾りの宝鐸（ほうたく・ほうちやく）に似ていることから名づけられました。草丈は、30から60cmで茎は上部で分かれています。先端の葉の付け根から花が1～3個垂れ下がって咲きます。似たような花をつける植物にアマドコロがあります。

アマドコロは、アスパラガスと同じキジカクシ科でナルコユリ属の山野の草地に生える多年草です。ベルのような先端が少し緑色した白い花を連なるように咲かせます。そのあと、冬は、地上の部分が枯れて、根の状態越冬します。名前の由来は、根茎の形が、トコロ（野老）と呼ばれるヤマイモ科の植物に似ていて、トコロが苦いのにに対して甘いのでアマドコロとなったといわれています。

ホウチャクソウとアマドコロのちがいは、花のつき方が異なり、また、日当たりがよい場所でも大丈夫なアマドコロに対して、ホウチャクソウは、薄暗いところに生育します。今回、紹介した3種類の草花は、いずれも庭園の木道の橋の近くに咲いています。見つけて、比較してみてください。

さらに、庭園では、ミツバツチグリ、ヘビイチゴ、ムラサキツメクサなどのいろいろな花がいたるところで観察できます。ぜひ、みなさんと自然庭園にお越しください！



ウラシマソウの花が咲く様子
浦島太郎の持つ釣りざおの糸のよう



ウラシマソウの花
葉のカタチも独特です



ホウチャクソウの花が咲く様子
寺院の軒先の四隅に飾られた宝鐸のよう



ホウチャクソウの実



アマドコロの花の咲く様子



アマドコロの花、ベルが連なるようです



ミツバツテグリの花の咲く様子



ミツバツテグリの花



ヘビイチゴの花の咲く様子



ムラサキツメクサの花の咲く様子

ネムノキの葉と花(6月の自然庭園では) ～みぬま見聞館トピックス～

このページを印刷する

このページでは[大宮南部浄化センター（みぬま見聞館）](#)のトピックスを紹介をします。

ネムノキの葉と花(6月に自然庭園で観察できる動植物について)

日差しは強いながらも、さわやかな日が続いていますが、6月は、うっとうしい梅雨を迎える月でもあります。今月は、月明かりに映えて、幻想的な花を咲かせる「ネムノキ」を紹介します。ネムノキは、別名、メム、ネブノキ、コウカとも呼ばれる、マメ科の、高さ6～9メートルにも達する落葉高木です。マメ科であるため、他のマメ科の植物と同じで根に空気中の窒素から養分を作る菌が共生しており、養分のないやせた土地でも育ちます。

日当たりのよい山野の湿地に生育し、葉は、複葉と呼ばれる葉っぱ自身の切れ込みが深くなり、主脈に達して、葉の面が左右に2個以上の小さな葉になったものであり、6月から8月に夕方からピンクの筆のような花を咲かせます。筆の毛のような部分は、雄しべで、先端に黄色い葯（やく）があります。雌しべは、雄しべに紛れて、花の中央にあり、全体が白く葯（やく）がありません。

ネムノキは、夜になると小さな葉の列が、手を合わせるように重なります。その状態は、オジギソウの葉が手を触れると重なり合うのに似ています。名前の由来は、暗くなると、このように就眠活動で葉を閉じて眠ったようになることからです。

しかしながら、ネムノキは手で触れても、葉は閉じません、明暗の変化が、ネムノキの場合は必要となります。

自然庭園では、ネムノキは、東口近くに生育しています。高さ約3メートルで根元から、横に広がり通路側にも大きく枝が張り出しています。5月上旬には、枝に葉をつけ始めました。ネムノキの葉は、キタキチヨウの食草でもあります。花は、高い位置に咲きますが、葉は、低い位置の枝にもあり、すぐ近くで葉の状況を観察することができます。ぜひ、一度、自然庭園の散策にお越しください。

このほかにも、アサザ、ハンゲショウ、ヤマホタルブクロ、ネジバナ、ムラサキツメクサなど、この時期ならではの花も観賞できます。また、国蝶のオオムラサキも小屋の中で美しいチョウの姿を観賞できます。平日であれば、ヘイケボタルの光る様子も観察できます。オオムラサキとホタルについては、ホームページでもご案内します。ご鑑賞に訪れてみてはいかがでしょうか。



ネムノキの葉と花
花は夕方から咲きはじめます



ネムノキの葉と蕾
葉は暗くなると閉じます



アサザの花
花の縁どりがキレイです



ハンゲショウ
花を大きく見せるよう、花のまわりの葉が白くなります



ヤマホタルブクロ
特徴のあるカタチの花です



ネジバナ
名のとおりの花の咲き方をしています

アベリアとオオスカシバ (7月の自然庭園では) ～みぬま見聞館トピックス

このページを印刷する

このページでは[大宮南部浄化センター \(みぬま見聞館\)](#)のトピックスを紹介をします。

アベリアとオオスカシバ(7月に自然庭園で観察できる動植物について)

7月になり相変わらずしとしとジメジメと雨がっていますが、もうすぐ梅雨が明け太陽が照り付ける暑い季節がやってきます。今月は、アベリアとその花の蜜を吸いに来るオオスカシバを紹介いたします。

屋上庭園にアベリアが咲いています。スイカズラ科ツクバネウツギ属・常緑低木で枝は多数に分かれ鮮紅色でつやがある葉は、太陽の光を浴び生き生きしています。生育が盛んで勢よく伸びた枝先に釣り鐘型でやや赤みをおびた白色の花をつけ6～11月頃まで連続して咲き爽やかな甘い香りがします。

この蜜を吸いにオオスカシバがやってきます。オオスカシバは、チョウ目スズメガ科に属する蛾の一種ですが日本に生息する昆虫類の中で美しい生き物の一つではないでしょうか。まじかで見ると目がくりくりしており、全長6CM前後透き通った羽を持ち全身を黄緑、赤、黒の色鮮やかな体毛で覆われたその姿は、とても蛾の仲間には見えません。オオスカシバがホバリングしながら長く発達した口吻で花の蜜を吸う姿はとても優雅です。色鮮やかな体毛と丸々と太った体形でスズメバチやハチドリに擬態し天敵を威嚇し、身を守っているといわれています。蝶や蛾は、鱗粉を全て落とすと雨水をはじかなくなったり、飛べなくなってしまいますが、オオスカシバは、蛹から羽化した直後は翅に灰色の鱗粉をつけてますが、飛び立つ際の最初の一回りで翅の鱗粉は全て落ち本来のオオスカシバの姿になります。蜂のように羽ばたく回数が多いので鱗粉が取れても飛ぶことができるそうです。

そして庭園では、花序の様子が栗のいがに似ているミクリや、トンボもたくさん飛んでいて、全身が黒色で腰だけが白または黄色のコシアキトンボ。翅が光沢のある黒で幻想的な飛び方をするハグロトンボなどがおります。是非一度、自然庭園の散策にお越しください！



アベリアの花の咲く様子
公園や駐車場などでよく見かけます



アベリアの花
甘い香りに誘われて色々な生きものが集まります



オオスカシバ
見事なホバリングを見せてくれます



準絶滅危惧種のミクリ
確かに栗のイガに似ています



コシアキトンボ

自然庭園ではたくさんのコシアキトンボに出会えます



ハグロトンボ

ひらひらと幻想的な飛び方をします

自然庭園は昆虫天国?! (8月の自然庭園では) ～みぬま見聞館トピックス～

このページを印刷する

このページでは大宮南部浄化センター（みぬま見聞館）のトピックスを紹介をします。

自然庭園は昆虫天国?! (8月に自然庭園で観察できる動植物について)

暑い日が続いています。

今月は、夏休みの期間でもあり、自然庭園で見られる昆虫類を紹介します。

8月の自然庭園内では、多くの昆虫が観察されています。

チョウでは、庭でよく見られるモンシロチョウ、キタキチョウのほか、ナミアゲハ、アオスジアゲハ、キアゲハ、クロアゲハ、ナガサキアゲハ、などのアゲハチョウ、キタテハ、コムシジ、コムラサキ、ツマグロヒョウモンなどのタテハチョウ、ヤマトシジミ、ルリシジミ、ムラサキシジミ、ベニシジミなどのシジミチョウ、キマダラセセリ、イチモンジセセリなどのセセリチョウなどが確認できました。6月に羽化したオオムラサキは、タテハチョウの仲間です。また、ガの仲間では、オオスカシバ、オオミズアオがいました。

これらのチョウで分布域を広げている大きなチョウ、ナガサキアゲハについて、紹介します。ナガサキアゲハは、東南アジア名地に広く分布し、日本が分布の北限とされるチョウです。その特徴は、黒色で、アゲハチョウのなかでも羽根が大きく幅広く、後翅（こうし）と呼ばれる後ろの羽根に尾のような突起がないことです。このチョウは、江戸時代までは、九州より南に分布が限られていましたが、分布域を拡大し、その後、近畿地方で確認され、現在では、関東地方でも確認されるようになり、みぬま見聞館の自然庭園においても、確認されました。地球温暖化の影響について、調査研究が進んでいますが、ナガサキアゲハの北方への分布拡大との関係も注目されています。

庭園ではこのほかに、シオカラトンボ、ナツアカネ、ハグロトンボなどのトンボ、アブラゼミ、ミンミンゼミなどのセミ、カブトムシ、オオカマキリなども見られます。

なお、自然庭園は、自然環境学習のビオトープ、すなわち、野生の生物が生きることのできる空間としてつくられているため、昆虫類をはじめとする生き物の採取はできませんので、観察して、写真を撮り確認し、お楽しみください。

ぜひ、一度、自然庭園の散策にお越しください。



ナガサキアゲハ
地球温暖化との関係が注目されています



クロアゲハ
翅の尾のような突起が印象的です



ツマグロヒョウモン
街中でも見受けられるキレイなチョウです



ルリタテハ
涼しげな瑠璃色のラインが特徴です



イチモンジセセリ
よく見かけるチョウの1つです



シオカラトンボ
羽化したばかりの様子です



ナツアカネ



アブラゼミ



ミンミンゼミ



カブトムシ



オオカマキリ



ノコギリクワガタ

「赤とんぼ」って？（9月の自然庭園では） ～みぬま見聞館トピックス～

このページを印刷する

このページでは[大宮南部浄化センター（みぬま見聞館）](#)のトピックスを紹介をします。

「赤とんぼ」って？（9月に自然庭園で観察できる動植物について）

残暑はまだまだ厳しいですが、昔は今頃になると赤とんぼの群れがよく見られました。しかし、昨今ではめっきり少なくなったように思います。

実際には「赤とんぼ」という名のトンボはいません。赤とんぼはグループ名でトンボ科アカネ属の総称です。

トンボ科アカネ属は日本に21種類おり体色に関係なく翅脈配列という翅の脈で分けているので、中には青や黒のトンボもいます。

逆に全身真っ赤なショウジョウトンボの雄はアカネ属ではないので「赤とんぼ」ではありません。

一般的にアキアカネのことを「赤とんぼ」と呼んでいるようです。そのアキアカネは平地で6月上旬～中旬に孵化し未熟な成虫は夏に涼しい山地へ移動して、その間に気温や成長の具合により徐々にオレンジ色から赤色に変化します。成熟して秋になると平地に戻り、ペアを見つけて田んぼや水溜りで産卵します。避暑をするトンボとして知られています。

みぬま見聞館では、毎年5～6月頃ヤゴの救出作戦としてさいたま市の小中学校のプールに出向き・シオカラトンボ・ショウジョウトンボ・ギンヤンマなどの幼虫のヤゴを救出し当センターのピオトープに放しています。

成虫となったトンボが庭園を元気に飛び回っている姿を見に来ていただけたらと思います。



色付く前の赤とんぼ
（ナツアカネ）



真っ赤に染まった赤とんぼ
（ナツアカネ）



赤とんぼ（アキアカネ）のヤゴ



自然庭園でよく見かけるトンボの一つ
ハグロトンボ（参考）

くつつく、ひっつき虫(10月の自然庭園では) ～みぬま見聞館トピックス～

このページを印刷する

このページでは大宮南部浄化センター(みぬま見聞館)のトピックスを紹介をします。

くつつく、ひっつき虫(10月に自然庭園で観察できる動植物について)

朝晩、涼しくなり、秋本番となってきました。10月になると、植物の花とともに樹木の実や種子、葉っぱの色の変化を観察する機会が増えました。

今日は、「ヒツキ虫」を紹介します。

「ヒツキ虫」は、昆虫ではなく、フックや逆さとげによって、皮膚や衣類に引っかかったり、貼りついたりする植物の種子や実の俗称です。みなさんは、センダングサやオナモミなどの実や種で、友達と服に投げ合いをして、引っ付けて遊んだことはありませんか？ひっつかれた側には、利益はなく、ひっついた植物側にとっては、ひっつかれた人間が移動することにより、生育する場所を広げられる利点(メリット)があります。

園内に生育しているヒツキ虫と呼ばれている植物は、表面に突き出した針の先がかぎ型になっていてひつつくキンミズヒキ、ミズヒキ、ハエドクソウ、表面に細かなかぎが並んでいて面ようになってひつつくアレチヌスビトハギ、ヌスビトハギ、逆さ向きのとげをもっていてそれでひつつくアメリカセンダングサ、コセンダングサ、チカラシバ、ヘアピンのように折れ曲がった針を持つイノコズチ、表面に粘液をもつ毛をもっていて、ひつつくチヂミザサなどが生育しています。

これらのひつつく仕組みの内、表面に細かなかぎが並んでいて面になっているものは、現在、多方面で使用されている面ファスナーのヒントとなったともいわれています。

日暮れも早くなり、紅葉も間近な時期となってきました。秋の一日、衣服についてヒツキ虫の観察とともに、自然庭園の散歩をお楽しみください。



キンミズヒキの種
先端がかぎ型になっていて、ヒツキます



キンミズヒキの様子
小さな黄色の花がたくさん咲きます



ヌスビトハギの種
平らな表面にかぎ型がたくさん並んで、ヒツキます



ヌスビトハギの様子
小さく可憐な花がたくさん咲きます



コセングサの種の先端
逆さ向きのトゲがたくさんついていてヒツツキます



コセングサの種の様子
ひっつき虫になる前と後といった感じです

コセングサの種
気が付くと靴下などにたくさんからんでいますね



コセングサの花
控えめに咲きます



イノコズチの種
ヘアピンのような針でヒツツキます



イノコズチの様子
ごく小さい花がまとめて咲きます



チヂミザサの種
表面のツユ状の粘液のついた毛でヒツツキます



チヂミザサの様子
あまり目立たない感じです

ハナミズキとヤマボウシ (11月の自然庭園では) ～みぬま見聞館トピックス

このページを印刷する

このページでは[大宮南部浄化センター（みぬま見聞館）](#)のトピックスを紹介します。

ハナミズキとヤマボウシ(11月に自然庭園で観察できる動植物について)

秋も深まり冬の足音が聞こえる11月です。朝晩冷え込みますと、みぬま見聞館の木々・マユミ・メグスリノキ・ハウチワカエデ・イロハモミジ・トウカエデ・ナンテン・ガマズミ等も美しく色づきます。

今回はその中から、ハナミズキとヤマボウシを紹介したいと思います。

ハナミズキは1912年にアメリカワシントンに桜の木を贈呈した際、1915年に返礼として日本に贈られた木です。木肌は、灰黒色の網目状で裂け目があります。ハナミズキの花は4月に桜の花が散るころ咲き始め、白やピンクの4枚の花弁のように見える総苞片と言われている葉の部分がありますが、実際の花はその総苞片の真ん中に小さいものがたくさん集まって球状になったものです。

9月頃、赤い実が生りますが毒性がありますので決して食べないでください。

一方ヤマボウシは、日本古来の木で木肌がツルツルして味わい深いものです。中央に小さく集まった丸い花を僧侶の頭に、4枚の総苞片を頭巾に見立てて名前が付けられました。総苞片は手裏剣のようにとがっていてやはりピンクや白もありハナミズキの開花後の6月頃に開花します。

9月になりますとオレンジ色の実が生り、マンゴーのように甘くて美味しくジャムや果実酒にもできるそうです。

正式名称アメリカヤマボウシと呼ばれるハナミズキとは大分違いますが、共に紅葉も楽しみ4月頃には日の光が透き通る新緑がとても美しく、季節ごとに楽しめる木々ではないでしょうか。

秋の日差しが庭園の空間に輝くように晴れた日の青空と紅葉のコントラストを楽しんでみてはいかがでしょうか。

是非お待ちしております。



紅葉するハナミズキです



まだ小さなケヤキの紅葉です



ハナミズキの実がなっています
こちらは毒性があるようです



ヤマボウシの実、美味しいそうです
ハナミズキよりこちらの方が毒がありそうですね



ヤマボウシです

自然庭園を訪れる鳥たち(12月の自然庭園では) ～みぬま見聞館トピックス

このページを印刷する

このページでは[大宮南部浄化センター\(みぬま見聞館\)](#)のトピックスを紹介をします。

自然庭園を訪れる鳥たち(12月に自然庭園で観察できる動植物について)

日暮れも早く、頬にあたる風の冷たさが気になる時期となりました。12月になると、木々の葉も落ち、北風のなか、植物は静かに時を過ごし、年末を迎えます。このような状況でも元気なのは、北国から南下してきた渡り鳥、冬鳥たちです。

今月は、自然庭園によく姿を現わす鳥たちを紹介します。

自然庭園東側フェンスから芝川を見ると、カモが、水面をゆうゆうと泳いでいます。見聞館2階のいとなみゾーンの望遠鏡でも観察することができます。芝川のこの場所は、西側の暗渠になっている水路の水が芝川に合流する場所であり、同じ敷地内にあるし尿処理場や下水処理場のきれいな水が流れ込み、芝川本流より水温が高くなり、水鳥が集まると見られます。

よく見られるカモは、コガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、ハシビロガモなどです。クイナ科のオオバンも見られます。過去には、オシドリ、トモエガモ、キンクロハジロが見られたこともあります。冬鳥以外にも、年間を通して見られるカルガモやウの仲間のカワウも見かけます。コガモは、飛来する時期が早く、10月初旬には、もう芝川で見られます。11月になると、ヒドリガモ、オカヨシガモ、オオバンなども飛来します。

また、自然庭園内においても、冬鳥のジョウビタキ、シメ、ツグミや年間を通して見られるシジュウカラ、メジロ、モズ、カワセミなどの声が聞こえ、時には、落葉した木々にその姿も確認できます。池にはコサギ、ダイサギも訪れます。

鳥たちの動き、表情をじっくり観察したい方には、双眼鏡の貸し出しも行っていきます。

寒さ対策をしっかりとって、落ち葉を踏みしめる音や鳥の声を聞きながら、自然庭園の散策をお楽しみください。



コガモ(オス)
目のところの緑色が水面に映えます



オカヨシガモ
わかりにくいですが胸の模様がキレイです



ヒドリガモ(オス)
頭の模様と水色の嘴が印象的です



ハシビロガモ(オス)
その名のとおり嘴の先が広がっています



オオバン
真っ黒のカラダに白い嘴が目を引きます



カルガモ
子連れで歩く姿を想像してしまいます



シメ
小さくて可愛い感じがですが肉食の猛禽類です



ツグミ
のんびりとした感じが癒されます



メジロ
キレイな鳴き声をしています



コサギ
昨冬の自然庭園の池のかいぼり時に毎日皆勤でした

アカマツの松ぼっくり (1月の自然庭園では) ～みぬま見聞館トピックス～

このページを印刷する

このページでは[大宮南部浄化センター \(みぬま見聞館\)](#)のトピックスを紹介をします。

アカマツの松ぼっくり(1月に自然庭園で観察できる動植物について)

今回は「松ぼっくり」のお話をしたいと思います。

日本には、マツ科、スギ科、ヒノキ科などの樹がつける実のことを総称して「松ぼっくり」と呼んでいて17種類もあります。

その中でも私たちがよく見かけるのは「アカマツ」とその「松ぼっくり」です。アカマツの実、つまりタネのなる「松ぼっくり」は、雌雄同株のアカマツの木に、4月に他の木の雄しべから花粉が舞って雌しべに受粉し、6月にかけて緑色の実になり、8月に茶色に変化しそのまま冬を越します。そして1年後の4～6月に再び大きくなり、11月頃には赤ちゃんの拳大の「松ぼっくり」に成長します。

「松ぼっくり」は、水につけると傘を開き、乾燥すると傘が閉じます。種子が成熟したときに、晴れて乾燥すると松かさ(鱗片)が反りかえって隙間を広げ、羽をつけたアカマツのタネが、風で飛ばされます。その後「松ぼっくり」は、根元から外れてポトリと落ちるのです。アカマツのタネは、病害虫の被害を受ける危険が高いため、なるべく離れた場所で発芽させようと工夫しているのですね。

そのアカマツの木は正月に、真っ直ぐ上に向かって伸びる樹形に子孫繁栄や未来への発展の祈願をこめて、家の門の前に門松を飾るご家庭も多いのではないのでしょうか。正面から向かって左側に雄松と呼ぶ「クロマツ」、右側に雌松と呼ぶ「アカマツ」を飾るご家庭もあるようです。

みぬま見聞館では「松ぼっくり」をリース作りや、松ぼっくりツリーの材料として利用しています。

ご来館の際は、自然素材を使った工作の用意がありますので、窓口でお声がけください。

皆様のお越しをお待ちしています。



アカマツの「松ぼっくり」
工作用に掃除しました



アカマツの木です
大宮公園で撮影したものです



通称「シダローズ」は
ヒマラヤスギの「松ぼっくり」の先端です



ヒマラヤスギです
案外と身近にそびえ立っています



イメージするカタチと違いますが、
メタセコイヤの実も「松ぼっくり」です



メタセコイヤはこの並木のように今は身近にありますが、
1940年代に中国で発見されるまで絶滅種と考えられていました

昆虫の冬越し(2月の自然庭園では) ～みぬま見聞館トピックス～

このページを印刷する

このページでは大宮南部浄化センター(みぬま見聞館)のトピックスを紹介をします。

昆虫の冬越し(2月に自然庭園で観察できる動植物について)

寒さの厳しい時期が続いています。自然庭園も、木々の葉が落ち、静かにじっと春を待っています。今月は、この寒さに耐えている昆虫の冬越しの姿を紹介します。

みなさんは、昆虫は秋に産卵し、冬の間は卵の形で寒さから身を守り、春になり、暖かくなると幼虫になって動き出すと思われている方が多いのではないのでしょうか。実際は、いろいろな姿、方法で寒さから身を守り、冬越しをしています。

昆虫は、どのような姿で、そしてどんな場所で冬越しするのでしょうか。

姿としては、卵のほか、幼虫、さなぎ、成虫とさまざまな姿で冬越しをします。

卵の形で冬越しするのは、オオカマキリ、エンマコオロギ、ナナフシなど、幼虫で冬越しするのは、アカスジキンカメムシ、オオムラサキ、さなぎで冬越しするのは、ナミアゲハ、モンシロチョウなど、そして成虫で冬越しするのは、テントウムシ、クビキリギス、コクワガタ、コガタズメバチ、ウラギンシジミ、ヒメアカタテハなどがいます。

冬越しする場所は、屋内、地中、落ち葉の下、樹木の樹皮の下などさまざまです。

チョウの仲間については、冬越しの説明を加えます。

よく知られているのは、さなぎで冬越しするナミアゲハ、モンシロチョウ、ルリシジミなどです。みぬま見聞館ロビーにおいてある虫ケースの蓋の裏側には、ナミアゲハ、キアゲハのさなぎがいくつもぶら下がっています。ナミアゲハのさなぎは、緑色と茶褐色の2種類の色があり、まわりの色に合わせた保護色となっています。春になると羽化し成虫になり、虫ケースから自然にかえしてあげます。

さなぎと似ていますが、繭で越冬する昆虫にイラガがいます。イラガの繭は、スズメの卵と似たような形をしており、春先中にさなぎになり羽化します。

ツマグロヒョウモン、ヒメウラナミジャノメ、コミスジや国蝶のオオムラサキなどは、幼虫の形で冬を越し、春になると葉っぱをモリモリ食べ、成長しさなぎになり羽化して成虫になります。

庭園では、虫たちのほか、植物においても、葉痕、冬芽など表情豊かな樹木の姿も見られます。防寒の備えをしてお越しください。



オオカマキリの卵
見つけにくいところにあるので探してみましょう



オオカマキリ
卵で冬越しをします



ツマグロヒョウモンの幼虫
トゲトゲしていますが毒はありません



ツマグロヒョウモン
幼虫で冬越しをします



オオムラサキの幼虫、この姿で冬越しします
春にエノキの葉を食べ始めると脱皮して緑色になります



コムスジ
こちらも幼虫の姿で冬越しをします



イラガの繭、この姿で冬越しをします
確かにスズメの卵に似ています



ナミアゲハ
こちらはサナギの姿で冬越しをします



ルリシジミ
こちらもサナギの姿で冬越しをします



クビキリギス、この成虫の姿で冬越しをします
どこかに隠れているのかもしれませんが



ナミテントウ、こちらも成虫で冬越しをします
小春日和の暖かいときに見かけることがあります



ウラギンシジミ
こちらも成虫の姿で冬越しをします

サクラ咲く (3月の自然庭園では) ～みぬま見聞館トピックス～

このページを印刷する

このページでは[大宮南部浄化センター（みぬま見聞館）](#)のトピックスを紹介をします。

サクラ咲く(3月に自然庭園で観察できる動植物について)

まず最初にお知らせがあります。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため、みぬま見聞館及び自然庭園は令和2年3月31日火曜日までお休みとなりますので、ご了承いただければと思います。再開については市のホームページ等でお知らせしますので、ご確認ください。

さて、寒さもようやく衰え始め日増しに暖かな陽気になりますと、サクラのつぼみも膨らみ始めます。

サクラは、400～600種類あるといわれています。その中でも日本の文化に根づいているソメイヨシノは、江戸時代の終わりに染井村の植木屋さんが吉野桜として売り出したのが本種の起源といわれています。ヤマザクラの名所として名高い奈良県吉野山のサクラも吉野桜と呼ばれており混同を避けるため、明治33年にソメイヨシノに改名されました。

そのソメイヨシノは、すべて同一のソメイヨシノから接木して作られたもので同じ遺伝子を持ち、気温に対して同じ反応を示すことから桜前線の目安となっています。花の色は薄いピンクのイメージですが、実際にピンク色を帯びるのは咲始めだけで、時間経過と共に白くなっていきます。乾燥や潮風に弱く暖地では花の形が綺麗にならないためソメイヨシノは東日本に多いようです。

みぬま見聞館の自然庭園には数種類のサクラがあります。

その一つ、オオカンザクラはソメイヨシノより3週間ほど早く咲きます。花もちも良く3週間ほど咲き続けます。オオカンザクラは、カンザクラの園芸品種でカンザクラより花が大きいことから、オオカンザクラと名付けられ川口市安行にあった原木から各地に広まり、安行にちなんでアンギョウカンザクラとも呼ばれています。例年は3月上旬頃に見ごろをむかえますので、今年のみぬま見聞館のオオカンザクラは、残念ながら皆さまに見てもらえないかもしれません。令和2年3月3日のオオカンザクラの写真でお楽しみください、とてもキレイ咲いています。

ただ、他のサクラは、葉と花が同時に開くヤマザクラなど、咲く時期が異なりますので、例年3月上旬～4月半ばまで楽しませてくれます。

自然庭園の沢山の花が、皆さんのお越しを待ちわびておりますので、みぬま見聞館が再開しましたら、是非ご家族やお友達をお誘いのうえお越しください。



みぬま見聞館のオオカンザクラです(令和2年3月3日撮影)